

算数 1次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評
		受験者	合格者	
【1】	(1)	91.5	98.8	例年通り四則演算を含む雑小問である。合格者は概ねここで確実に得点している。(2), (3)の正答率が低い、いずれも流水算、割合の基本問題であり、ここでの取りこぼしは避けたい。
	(2)	41.3	59.8	
	(3)	47.1	61.0	
	(4)	75.8	91.5	
	(5)	88.8	97.6	
	(6)	81.2	90.2	
【2】	(1)	78.0	92.7	規則性の基本問題。問題文の意味さえ分かれば非常に易しい。(2)は1から10までの和が55であることに気づけば瞬時に解答が分かる。
	(2)	63.2	81.7	
【3】	(1)	38.6	62.2	流水算の応用問題で【1】(2)と似ているが、難易度はこちらの方が高い。複雑ではあるが結局速さの問題であり、問題文にある状況を把握し、比を使って解きたい。合格者と不合格者の正答率の差が大きく出た問題であった。
	(2)	35.0	50.0	
【4】	(1)	59.2	80.5	直方体の敷き詰めの問題。どのような規則で敷き詰めるのか理解できたかどうかポイントとなった。この問題も合格者と不合格者の正答率の差が大きく出た。
	(2)	40.8	73.2	
【5】	(1)	69.9	85.1	【5】にしては易しい問題であったが、記述問題であり、論理的に考えていることをしっかり説明できるかを見た。様々なアプローチでの解法が見られ、受験生の熱意が答案から伝わった。ダイアグラムを利用して視覚的に分かり易く説明してくれた答案が多かった。
	(2)	51.6	67.3	
【6】	(1)	57.6	69.3	長方形の内部を正三角形が転がる問題。世田谷学園の入試では比較的多く出題されている問題である。まずこの問題における「転がる」の意味をきちんと理解できていない答案が多かった。また、正三角形が頂点Cをまたぐときに 30° , 60° , 90° の直角三角形の隙間ができることがポイントだったが、おさえられた受験生は少なかった。この結果が(2)の正答率に影響した。
	(2)	18.9	32.3	

算数特選 正答率・講評

問題	正答率 (%)		講評	
	受験者	合格者		
【1】	(1)	84.3	98.8	過不足算の定番問題で、唯一の基本問題。取りこぼしは命取りではあるが、大半の受験生は正解しており合否にはほとんど影響しなかった問題。
	(2)	82.3	97.6	
【2】	(1)	35.2	56.3	9本の直方体を積み上げて作った立方体から、直方体を取り除く問題。取り除いた後の立体の図が書ければ計算は単純。いわゆる「バランス積み木」の問題なので、幼少時に積み木を手にとって遊んだ経験が豊富だとイメージし易かったのかもしれない。
	(2)	29.4	50.3	
【3】	(1)	72.9	95.8	2円の円周上を、2点が8の字に移動する問題。(1)は単純な速さの問題で正答率も高い。(2)では2点が同一円周上を動く時間をきちんと書き出せたかがポイントであった。
	(2)	47.5	78.4	
【4】	(1)	24.5	48.7	図形の問題。(1)は三角形BGCが、三角形BFCと三角形BECの共通部分と見ることができるかがポイント。シンプルのようだがここに気づくには熟練が必要である。(1)が正解できないと(2)は厳しい。
	(2)	16.2	33.9	
【5】	(1)	46.1	68.2	整数の応用問題。〈 〉記号の定義が複雑であり、まずきちんと理解できたかがポイント。また、(1)も(2)も答えが複数あり、問われているものの条件を満たすものを過不足なく洗い出す注意力や集中力も必要であった。
	(2)	36.4	59.5	

算数 2次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評
		受験者	合格者	
【1】	(1)	85.8	89.2	四則演算を含む雑小問である。基本的な問題なので取りこぼしは避けたい。(5)の時計の問題は非常に正答率が低かった。時計算(速さの問題)として捉えるより 90° になるときの時計盤をイメージして数え上げるほうが確実。基本的には1時間に2回 90° になるが、2時台だけが1回になる(3時ちょうどが 90° だから)。そこに気づけたかどうかは鍵である。
	(2)	87.9	93.4	
	(3)	95.6	95.8	
	(4)	94.4	97.0	
	(5)	18.3	21.0	
	(6)	57.2	78.4	
【2】	(1)	87.3	95.8	比の基本問題。特にひねりもない定番問題で正答率も高く、計算ミスなどによる失点は命取りになりかねない。
	(2)	90.3	97.0	
【3】	(1)	47.5	73.1	ニュートン算の定番問題ではあるが、ニュートン算自体理解の難しい分野であり、正答率は低くなった。世田谷学園の入試では比較的多く出題されている問題であり、理解を深めておきたい。
	(2)	31.3	53.9	
【4】	(1)	77.9	91.6	水の中にある2つの直方体に関する問題。(2)では、直方体Bを取り出したときに何がどのように変化するのか、また、変わらないものは何なのかを整理して考える必要があり、難易度が高かった。
	(2)	9.7	16.8	
【5】	(1)	70.6	88.6	三角形を等積に6分割する問題。どこを底辺にみて、どこを高さとするのかを分割のたびに考える。また、記述の問題なので、計算式だけでなく、どこの長さを基準として考えたのか等を言葉を補ってきちんと伝えるように記述する技術も必要とされた。
	(2)	27.4	43.3	
【6】	(1)	16.6	24.4	速さの応用問題で、難易度が高かった。A君とB君の動きがかなり複雑なので、ダイアグラムなどを書いて整理しないと到底状況を把握しきれない。与えられた情報が多いので、その中から取捨選択し、何を求めるのか見失わないようにしたい。
	(2)	3.6	6.6	

算数 3次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評
		受験者	合格者	
【1】	(1)	77.5	90.0	四則演算を含む雑小問である。基本的な問題なのだが、正答率はそこまで高くない。(4)は過不足なく書き並べることができるかがポイントで、規則的に数えることが大切。
	(2)	76.5	91.4	
	(3)	58.5	71.4	
	(4)	21.0	34.3	
	(5)	77.5	91.4	
	(6)	52.0	67.1	
【2】	(1)	64.5	91.4	比の問題。(2)の正答率が著しく低い。兄6歩の距離と弟8歩の距離が等しく、兄6歩にかかる時間と弟7歩にかかる時間が等しい。このことから兄が6歩進むと、弟1歩分の距離が縮まることに気づいて欲しい。
	(2)	6.0	14.3	
【3】	(1)	45.0	78.6	食塩水の濃度の問題。定番の問題ではあるが、苦手とする受験生が多い分野であり、正答率もそこまで高くはない。
	(2)	46.5	81.4	
【4】	(1)	39.5	71.4	図形の問題。解法がいくつか存在する問題であるが、情報を上手く取捨選択して図を整理していきたい。情報が多すぎても混乱してしまうだけである。
	(2)	40.0	67.1	
【5】	(1)	19.6	30.0	規則性の問題。(1)で問われている7番目までを求めるところで、規則を把握したい。ただ、逆に言えば7番目までで間違えてしまうと、先へは進めない。
	(2)	3.1	5.6	
【6】	(1)	52.4	74.9	仕切りのある直方体に水を入れていく問題。折れ線グラフの折れ目がどのような状況のときなのかを整理しながら考えたい。問題文が長いので整理しにくいかもしれないが、一つひとつの事柄はさほど複雑ではないので丁寧に読み進めたい。
	(2)	9.6	20.1	